



榎 隆司 議員

支所地域の活性化対策 子どもの読書対策 認知症の見守り対策

支所地域への観光客の呼び込みについて

問 地域の特徴を生かした観光メニューづくりの考えは。

答 特に集中している市内観光客を周辺地域に誘導することは、喫緊の課題であると考えている。着地型ツアーの造成は年々増加しており人気も高まっていくことから、インターネットの活用や、パンフレット等も作成し、関係団体や事業者と連携し積極的に取り組む。

読書通帳の導入について

問 子どもの読書推進と図書館の利用促進に向け「読書通帳」を導入する考えは。

答 指定管理者とも連

携し、導入については検討する。

認知症患者の見守り対策について

問 認知症患者の見守り対策として、関係機関と連携し写真の共有等を行い早期保護できるシステムを検討しては。

答 地域全体で支えていくことが重要であり、各種情報媒体により早期発見に向けて市民の皆様との協力をお願いしているが、地域や事業者の方々の協働による認知症高齢者やその家族を支える体制を構築したいと考えている。



渡辺 甚一 議員

みんな で 婚活支援を！

結婚支援について

問 世話焼きおばさん的な存在がいなくなつた。市で委嘱できないか。

答 市では結婚相談所を開設し、相談員が対応している。昨年は358件の相談を受け、44組がお見合いをした。委嘱は考えていない。

問 昨年は何組結婚されたのか。また結婚祝い金等支援できないか。

答 昨年の婚姻受付数は936件。支援金は結婚・出産などに繋がる支援として検討する。

問 民間では街コンが開催され、結婚の実績もある。婚活イベントに支援は出来ないか。

答 市では婚活支援事業を民間業者に委託しているが、民間団体が実施する婚活イベン

トも効果的と考え、助成制度については前向きに検討する。

米の食味コンクールについて

問 平成30年に米・食味分析コンクールが高山市で開催されるが、規模・日程・会場はどう考えているのか。

答 出品点数は年々増加傾向にあり、生産組織や農業団体、行政等で組織する実行委員会において、受け入れ体制など大会要項を策定する。

問 過去の開催地では「環境王国」の認定を取得しているが、市では考えているのか。

答 民間団体で構成する認定制度で、農業と環境は密接な関わりがあり、農業者団体と協議し、前向きに進める。



北村 征男 議員

公民館使用の実態を みて検討する

国府公民館使用の申請手続きの見直しは

問 公民館使用の申請は2階のまち協の窓口へ、許可は支所1階窓口を統一しては。

答 さくらホール利用者の控室として2階研修室を使用することが多いため、指定管理者と相談し分けた。状況を調査し指定管理者に任せるのか直営でやるのか検討したい。

森林環境の取組みは

問 豪雪による倒木処理支援の考えは。

答 森林所有者自らが処理した場合は補助の対象外。地域の生産森林組合や林業グループ等に依頼し複数の作業などで処理すれば対象となる。

「飛驒高山モデル」の取組みは。

答 一つ目は新規林業従事者の支援など、二つ目は公共施設活用のパイロット事業、三つ目は市民と事業者の連携によりオール高山で自然エネルギーのまちづくりを進める。

農林畜産物の販売は

問 飛驒牛と米や野菜の販売戦略は。

答 高山市には国内外から年間430万人を超える観光客がみえる。観光客に対し食材においても飛驒牛をはじめ、おいしいお米や野菜類、地酒などを組み合わせ、飛驒高山の食文化、歴史、環境を含めた商品として、市内、首都圏さらには海外へも積極的に販売していく。